

8月24日に新潟地方気象台が発表した1か月予報（8月26日～9月25日）では、向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並みの見込みです。

平年より収穫が早くなることが予想されています。事前準備をしっかりと行い収穫作業に備えましょう！

稲作技術情報

「例年になく高温で推移！刈り遅れに注意しましょう！」

○出穂期別収穫期の予想

本年は出穂期以降の気温が高く推移し、収穫の目安となる積算温度も平年以上のペースで進んでいるため、収穫適期が早まっています。

コシヒカリは、高温登熟年において積算温度950℃頃の整粒歩合が高くなる傾向にあるため、例年より早く収穫を開始しましょう。

南魚沼農業指導普及センターより（8/21時点）

	出穂期	収穫適期目安 950℃	収穫終了の目安 1,100℃
コシヒカリ	8月1日	9月6日	9月12日
	8月4日	9月9日	9月16日
	8月7日	9月13日	9月20日
	8月10日	9月18日	9月25日

※湯沢町及び高標高地では、上記目安から1～2日程度遅くなる見通しです。

**作業面積に応じて、収穫作業のピークが収穫適期となるように努めましょう！
また、収穫作業の効率化を図るためにも、カントリーの利用をご検討ください。**

○穂の黄化率（穂の外観）を確認し適期収穫！

収穫適期の10～7日前で、穂の黄化率が50～70%となり、収穫適期は85～90%が黄化し、穂の基軸部分に若干緑色が残っている頃です。

「積算温度」を目安に「籾の黄化率」を確認して収穫判断をお願いします！



黄化率70%



黄化率80%



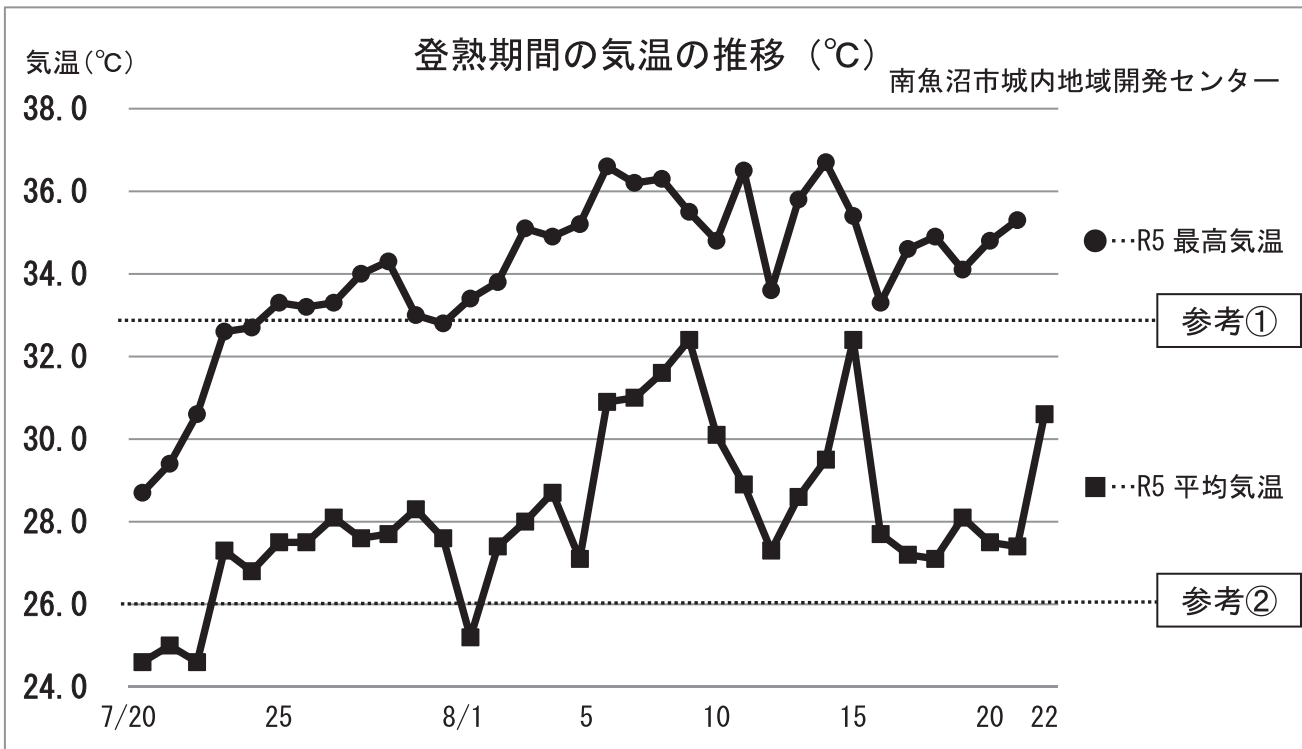
黄化率90%

※黒塗の籾：黄化していない籾

○登熟期間の気象の影響

本年は、登熟期間における高温気象の影響で、基部未熟粒や胴割粒が発生しやすくなっており、品質低下が平年よりも起きやすい条件となっています。

品質低下を抑制するためにも、適期収穫と適切な乾燥・調製に努めましょう。



参考① (の点線)

出穂期後10日間の最高気温が概ね33°C以上の場合、胴割粒が増加する。

新潟県水稲栽培指針より

参考② (の点線)

出穂期5~24日後の平均気温が26°C以上で基部未熟粒が増加しやすい。

新潟県水稲栽培指針より

○高温年の乾燥作業はより慎重に!!

- 胴割粒は、水分が高い生糶の急激な乾燥や、過乾燥が原因で発生が助長されます。本年のように高温が続き、立毛での胴割れが予想される場合は、低温乾燥や二段乾燥等、生糶の状態に合わせた乾燥方法を選択しましょう。
- 糶水分のバラツキが大きい時は、熱風温度を1~2ランク下げ、二段乾燥を行いましょう。
- 糶水分が高い時は、バーナーを点火せずに、2~3時間通風乾燥を行い、通常の状態になったら、熱風乾燥を行いましょう。
- 異なる圃場の生糶を、一度に乾燥する場合は同じ収穫日でも糶水分のバラツキがあるため二段乾燥を行いましょう。

※二段乾燥…平均水分値18%前後で一旦乾燥を休止し、休止中に糶水分のバラツキを補正し再乾燥すること。

稲刈り後は近隣道路への配慮をお願いします。

農業機械の走行による道路の泥が散見されるため、圃場から出た際には泥を払う、機械から落ちた泥を清掃するなど近隣への配慮をお願いいたします。

～収穫に向けて!秋冬野菜の病害虫防除～

秋冬野菜は被害が見える前に、病害虫防除を行うことがとても重要です。下記の被害写真を参考に防除を行い、病害虫被害を減らし見た目もきれいな秋冬野菜を作りましょう。

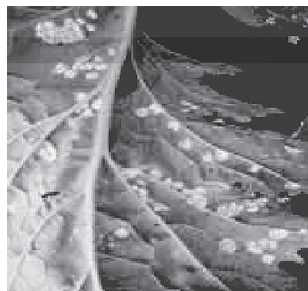
★ダイコン防除例

①主要病害被害

軟腐病



白さび病



病害名	薬剤名	使用時期	使用倍率	使用回数
軟腐病	スターナ水和剤	収穫14日前まで	1,000倍	5回以内
	バリダシン液剤5	収穫7日前まで	500倍	4回以内
白さび病・ワッカ症	アミスター 20フロアブル	収穫14日前まで	2,000倍	3回以内
軟腐病・白さび病・黒斑細菌病	ヨネポン水和剤	収穫7日前まで	500倍	4回以内

②主要害虫被害

キスジノミハムシ



アブラムシ



ハスモンヨトウ



害虫名	薬剤名	使用時期	使用倍率・量	使用回数
ネキリムシ類・タネバエ・コガネムシ類幼虫・ケラキスジノミハムシ	ダイアジノン粒剤5	播種時	40~60g/10㎡	1回
アオムシ・コナガ・ハスモンヨトウ・アブラムシ類	エルサン粉剤2	収穫30日前まで	30g/10㎡	2回以内
キスジノミハムシ	スタークル顆粒水溶剤	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内
アブラムシ類・ダイコンハムシ	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000~4,000倍	2回以内

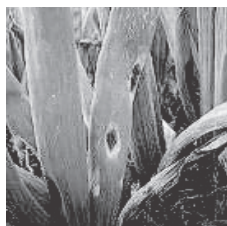
※上記農薬は「キャベツ」・「ハクサイ」にも使用可能ですが、

使用倍率・量、使用時期、使用回数等異なりますので、登録内容を確認してからご使用ください。

★ネギ防除例

①主要病害被害

黒斑病



べと病



さび病



軟腐病



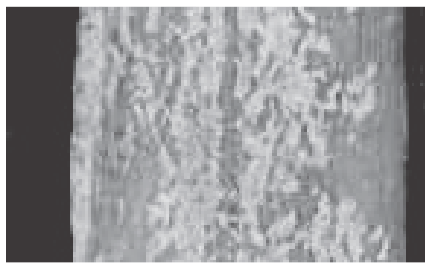
病害名		薬剤名	使用時期	使用倍率・量	使用回数
軟腐病	予防	オリゼメート粒剤	土寄せ時但し、 収穫30日前まで	60g / 10 m ²	2回以内
	予防＋治療	カスミンボルドー	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内
		バリダシン液剤5	収穫前日まで	500倍	2回以内
黒斑病・べと病・ さび病	予防	ダコニール1000	収穫14日前まで	1,000倍	3回以内
		ヨネポン水和剤	収穫7日前まで	500倍	4回以内
軟腐病	予防＋治療	スターナ水和剤	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内
黒斑病・べと病・ さび病・葉枯病		アミスター20フロアブル	収穫3日前まで	2,000倍	4回以内

②主要害虫被害

ネギハモグリバエ



アザミウマ類



害虫名	薬剤名	使用時期	使用倍率・量	使用回数
ネギハモグリバエ・ ネギアザミウマ	ダントツ粒剤	収穫3日前まで	30～60g/10 m ²	4回以内 ※粒剤・水溶剤 合わせて
	ダントツ水溶剤		2,000～4,000倍	
	ベストガード粒剤	収穫前日まで	60g/10 m ²	3回以内 ※粒剤・水溶剤 合わせて
	ベストガード水溶剤		1,000～2,000倍	



水和剤・顆粒水溶剤・水溶剤を使用する際は展着剤も使用し、薬剤効果を高めましょう！

- ・農薬を使用する際は、登録作物名・使用方法・使用回数・倍率等を確認し正しく使用しましょう。
- ・掲載している資材について、JA資材店舗在庫切れの場合は取り寄せとなります。ご了承ください。

次号「あぜみち」予告

■ 稲作…土づくりについて
※園芸は次号お休みです。

ご不明な点がございましたら、JAみなみ魚沼営農指導課
(アグリセンター大和：Tel777-3786 しおざわ基幹センター：Tel782-1171)
までお問い合わせください。